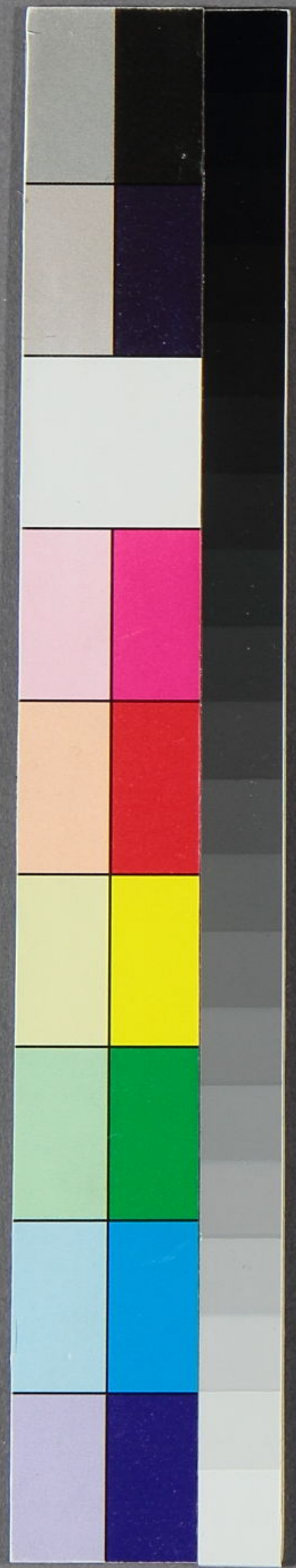


八代集抄

後拾遺雅四五

二七

特別
イ 4
3163
104(27)



貴
14
3163
104(27)



則先期長のこころ
則先陸奥乃る言ふ
まゝなりと平通又
こころよとていれ
けりるなり松の御
武隈松いふ所の
限と云ふよ一本
三内へえ宮の陸
り一併の松を種
はるいんこころ
三本とていれ
そののこころ
松のこころ能周美

後拾遺和歌集第十八

雜四
平通又

則先期長乃る言ふ
けりるなり松の御
武隈松いふ所の
限と云ふよ一本
三内へえ宮の陸
り一併の松を種
はるいんこころ
三本とていれ
そののこころ
松のこころ能周美



下向奥列^二為^一蘇^方此^自并^國
竊^ラ菴^ラ居^テ下^向真^ニ
列^ノ由^風吹^ク二^一下^向
向^ノ由^{あり}於^一一^一者^實
九^書八十^鳴記^ラス^ニ
下^向奥^列に^在る^に
松^ノ年^を松^ノ心^に
と^いふ^に
彼^河原^院乃^東の^と
と^いふ^に
乃^河世^果乃^東乃^東
乃^河世^果乃^東乃^東
乃^河世^果乃^東乃^東

下^向奥^列に^在る^に
松^ノ年^を松^ノ心^に
と^いふ^に
彼^河原^院乃^東の^と
と^いふ^に
乃^河世^果乃^東乃^東
乃^河世^果乃^東乃^東
乃^河世^果乃^東乃^東

大江嘉言

江信臣

八

乃^河世^果乃^東乃^東
乃^河世^果乃^東乃^東
乃^河世^果乃^東乃^東
乃^河世^果乃^東乃^東
乃^河世^果乃^東乃^東
乃^河世^果乃^東乃^東
乃^河世^果乃^東乃^東
乃^河世^果乃^東乃^東
乃^河世^果乃^東乃^東
乃^河世^果乃^東乃^東

乃^河世^果乃^東乃^東
乃^河世^果乃^東乃^東
乃^河世^果乃^東乃^東
乃^河世^果乃^東乃^東
乃^河世^果乃^東乃^東
乃^河世^果乃^東乃^東
乃^河世^果乃^東乃^東
乃^河世^果乃^東乃^東
乃^河世^果乃^東乃^東
乃^河世^果乃^東乃^東

源為善朝臣

中乃子日 幼子日
此乃子日とて
松をむくむく
松をむくむく
松をむくむく

これをむくむく
かこむくの中の好行
あるは往を待とい
えんことねと中乃
子とをうくく
午のわりてんも
くふ愛くく松を
ふ行ハ松を
松を初んとて行

ついで乃の子日あるらん
くの中乃子日といふくは
あふちちりる人乃とあり松を
むくむくく松をむくむく

これをむくむく
わすく中乃わくけあふ
縁行不安松とつふく
大花師経
午のわりてんもかりぬれ松を

乃節もあつて
前太宰帥資仲
大納言資平子孫

いへる乃あの方
忠代絶伴也

松洞底のあひり
松乃いふのうく
まじりてんも

よる代乃松を
紫の人ぬ谷乃
ふと幸盤とて

よれあつてを下松とて
永承四年内裏命合松を
前太宰帥資仲

いへる乃あの方此風よ年とれと
松乃午のわりてんも
く乃あのことも松洞底のあひり
まじりてんも

よる代乃松を
紫の人ぬ谷乃
ふと幸盤とて

よる代乃松を
紫の人ぬ谷乃
ふと幸盤とて

清製
今上清製

今やまきとわかろう
 わかろうは枯れぬ校と
 ねちあて懸の代子
 目も物くらりあひ
 こちぬかしまさこ
 まろしんしんしん
 まちぢぢぢぢぢぢぢ
 いひひひひひひひひ
 核むす。着ひんす
 こぬわろ着ひんす
 ぬく。世のうらみ
 とららららら
 へらへらへらへらへら
 くらいららららら

歌志しと 菟原義孝

今やまきとわかろうめしゆゆのていせの
 あをくらりすぬらこらららららら
 字派しんしんしんしんしんしんしん
 紫核むす。しんしんしん
 菟原義孝

民部卿經信

核むす。着ひんす
 まさいま方かつしんしんしん
 関白前太政大臣ららららら
 せらら地とよ子けららら

今ものぬくしんしんしん世
 勝田池八雲抄下巻
 神津抄八雲抄の地子
 の昔より世にうら
 さいわい良玉集云
 梓しそ。いなるわら
 うら。乃昔の池と
 誰うま。大和
 榭。は撰抄巻
 いらのあ。ま
 心あましん

菟原範永朝臣

今ものぬくしんしん世いんかつしん
 池い。いなるあららららら
 する乃浦とよ子けらら
 菟原經衛

中納言定頼

いらのあ。ま
 うら。乃昔の池と
 菟原義孝

伊勢集子大和山竜
門寺乃勝乃乃
彼等のき 伊勢大和

あつゝとよきおと
桃乃乃のそおとよ
りおは

甚きいゝるあさ
美能乃一乃乃
久々おのわくせま
これおをさうあわ

かよひ乃月新乃りまつりて勝乃
ととゆく彼玉乃吉義忠朝臣乃桃
乃花れ竹々るさつくるさつひ

ゆりれい 女めめと
あつゝとよきおと
いせのいゝる勝乃さつひ

美能きさつひ時勝乃あよる
あせのいれりよすゆり
甚きいゝるあさ
お原兼房

の世いゝるあさ
しよのわくしあさ
まのいれりよすゆり
とこいれりよすゆり
大見乃乃勝乃
大見乃乃乃乃乃
りさつひあつゝとよ
まのいれりよす
あせのいれりよ
今まわくしあさ
とあつゝとよき
まのいれりよす
とこいれりよす
大井乃乃井せ
田の用水をれ八年

いれりよすゆり
大見乃乃乃乃乃
とこいれりよす
赤澤兼房

あせのいれりよす
とあつゝとよき
源道勝

とこいれりよす
とあつゝとよき
とあつゝとよき

こゝろせけともく
むしのこゝろとせ
こゝろはあつちなり

あき乃月よあつち乃

月乃種のみすも七

身の内明く 童蒙抄云
岡浮提地三岡浮樹あり

一名六波利買多一名竜

樹と云ふ八万四千樹

永月甲は祝せり世

又月を云ふは樹あり

了言はらり 則れ
岡浮樹乃氣也云々

平獲く又こゝろひくほらぬ

あつち乃月乃種よりあつち

人いふあつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつち

あき乃月よあつち乃

月乃種のみすも七

修理大吏惟正及信濃

あつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつち

後大

經文乃月の種をこ

いほのゆわわな

あつち乃月乃種のみすも七

あつち乃月乃種のみすも七

あつち乃月乃種のみすも七

あつち乃月乃種のみすも七

あつち乃月乃種のみすも七

あつち乃月乃種のみすも七

あつち乃月乃種のみすも七

あつち乃月乃種のみすも七

あつち乃月乃種のみすも七

あつち乃月乃種のみすも七

あつち乃月乃種のみすも七

いほのゆわわな

あつち乃月乃種のみすも七

あつち乃月乃種のみすも七

あつち乃月乃種のみすも七

あつち乃月乃種のみすも七

あつち乃月乃種のみすも七

あつち乃月乃種のみすも七

あつち乃月乃種のみすも七

あつち乃月乃種のみすも七

あつち乃月乃種のみすも七

後之系院淨觀

あつち乃月乃種のみすも七

八重坂ありてしるを
 去つえとつとめしと只
 下校をえとつとめし
 一海に暮経若乃を柱
 凡つたりの舟十箇面の
 寢殿の南面十箇の
 きてりてかりまゝに
 志く中門廊より入
 寢殿の階間より
 言談をたつらん
 也と常小経信子の自噴
 のりし感多きもの
 すやぐし乃満風とく
 心こけし
 松足れい立ちまか

那智山三年か
 花山院乃神伝子熊野(まりの
 幸えき大書よりの
 傳りたる乃まの神若きくよ
 りる
 ち大將源時任若ま
 こをりま
 松足れい立ちまか
 ころる波り志門
 形山 雅正子
 藤原 高長

巻八六

松乃葉まきゆり
 をそく波の潮あき
 まきまき物まき
 めと求めたるま
 わすれ葉は
 信若乃若を
 して昔方の世ま
 出しゆくま
 てもま
 下しかりぬる
 神は
 ぶせと八龍の
 初念も神は
 也波のま

すやぐしよま
 平棟伸 安藤重長子
因信也
 わすれ葉は
 きりり乃世
 若人ま
 いま
 源彩実 源氏物語
若人七忠尉
 神は
 ま
 熊野(ま
 信若ま

とすけり衣の玉
衣乃玉の江舟
経乃衣裏実珠も
とま惟まはしりけ
まやよふかうらう
松乃積りうとまひ
つとよやの繫具衣
裏のふりとりてし
和泉の住居し和泉乃
西国よりく四年
軍く上事也
一の今くいひきく
住居乃ねを先とて
りけて多年の念の終
と先と念とせま

経代書す。くよ子傳る。
増基法師
こまかけ門こまは乃玉の住より乃
神とひりりる松乃ことと
各チカ 大巨匠
奉周和泉乃住居くまわら上る
小いかりくねい伝るると住居は
りあるよ人伝るれとてくす傳け
お示出付る赤深衛門奉日毎
一の今くいひきくまわね住より
まりこのことり志る一見せらん

感草子云々時人の美
子白發老翁社中り
おまてい帯をたて
入るは病平愈
上東門院住居り
物次北云長元四年九月
北首女院住居る信
よあつてとせま
子やこ出て秋より老よ
九月北首子郎出て
十月二月は物次の由
業を物次とゆ
よあつてをすま
智徳太子なる人
乃返寄りる名富

上東門院住居りまの世まひて秋
乃末より老より感くゆとせ伝る
子清傳る 上東門院新宰相
子やこ出て秋より老よまわねれ
ひさしき様乃こまこうすれ
天王ちりまのわてかめ井とて
よ子傳る 赤乳母
よあつてをすめる龜井のあやこ
こ子乃と川乃あうれあ
長柄抄まくよ子傳る

乃小河此橋ハ三我
おが君此橋ハ三我
太子の橋ハ三我
橋よりあらあつし
あつての名ハ三我
よしとせし
也延久六年は三我
恒長治の時長柄の橋
只一橋ハ由業と
世ハ三我の心
わさるわさるの橋
三我の橋ハ
橋より如くこれハ
よしとせし
よしとせし

前大納言
橋よりあらあつし
あつての名ハ三我
よしとせし
也延久六年は三我
恒長治の時長柄の橋
只一橋ハ由業と
世ハ三我の心
わさるわさるの橋
三我の橋ハ
橋より如くこれハ
よしとせし
よしとせし

伊勢大補

乃小河此橋ハ三我
おが君此橋ハ三我
太子の橋ハ三我
橋よりあらあつし
あつての名ハ三我
よしとせし
也延久六年は三我
恒長治の時長柄の橋
只一橋ハ由業と
世ハ三我の心
わさるわさるの橋
三我の橋ハ
橋より如くこれハ
よしとせし
よしとせし

乃小河此橋ハ三我
おが君此橋ハ三我
太子の橋ハ三我
橋よりあらあつし
あつての名ハ三我
よしとせし
也延久六年は三我
恒長治の時長柄の橋
只一橋ハ由業と
世ハ三我の心
わさるわさるの橋
三我の橋ハ
橋より如くこれハ
よしとせし
よしとせし

道念法師

也
そのまゝに解れ

この一々なる
解れ

かゝる一々なる
格子をこまに
す

わけぬれはち

あまうとひひと
神宗御舎の御物
約々や本の丸

まじりたりし
あはれと安法は

この一々なる
かゝる一々なる

実寺朝臣
あはれと安法は

人きく
たれい御物

はうりく
よふ人きく

わけぬれはち

後下

我をれい
はくし
梁塵愚案抄云

本丸殿
と古来誤り

殿ハ新官

本丸殿より作るる天智天皇
天智天皇の御舎
名調
心ちあり

ひとり
まじりたりし

あまうとひひと
実寺朝臣

ひとり
あはれと安法は

これとまかりつゝ
ありのり之に流と知て
りおろさんとのまご
ありのりせいに人さかぬ
悪のの様とれいふ
のりて人さかんもう
しゝみのりすの者
らんごまごしゝま
せんとのまご
ひとまごにちの金
こまごのこわりとのま
悪之集乃奇よ金玉
乃巻のしおれとのま

と門せうまのりつゝ
こまごのりやさんとのま
これとまかりつゝ
こまごのりて赤深衛門
ありのりせいに人さかぬ
まのりまのりとのま
貫之の集をかりて
よまごのり
ひとまごにちの金
人さかんまのりとのま

夏十八上

白氏文集六二云題故元
少尹集遺文三十軸
軸々金玉聲竜門原
上土埋骨不埋名
孫無名天台山賊と試
よこれを地まのりよ金
玉のまごとのま
いみ一乃ちりる金ハ
る金とつゝまのり
と悪之の玉まのり
らりとのまのり
りる金玉と對して
かへらんむのりの
元補集云君之集を
人乃かりて西一修り

いみ一乃ちりる金ハ
何れをかりて西一修り
かへらんむのりの
元補集云君之集を
人乃かりて西一修り
紀時文 貫之子は櫻櫻
いみ一乃ちりる金ハ
何れをかりて西一修り
紀時文 貫之子は櫻櫻
清原元補
かへらんむのりの
元補集云君之集を
人乃かりて西一修り
紀時文 貫之子は櫻櫻
いみ一乃ちりる金ハ
何れをかりて西一修り
紀時文 貫之子は櫻櫻
清原元補
かへらんむのりの
元補集云君之集を
人乃かりて西一修り
紀時文 貫之子は櫻櫻

くゝわたりとてあつた
よきしとてそは
そよりとていふ
奥後云唯時老年涙
一瀧故人文と云詩
君のまへにおちれ下
かこはめりいり
也我りもあつた
と集て世はちん
とていふ

いぬとていふ
あつた
人の心もあつた
とこはあつた
集りていふ
あつた

あつた
伊勢大浦集を人
ていふ

康資王母 伊勢大浦女

いぬとていふ
いぬとていふ

後三系院浄時月
人あつた
よ人あつた
と集りていふ
後三系院越前

いぬとていふ
あつた
やいぬとていふ
とていふ
よあつた
いぬとていふ

あつた
あつた
あつた
あつた
あつた

いぬとていふ
あつた
七月とていふ
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた

くせしめとくふいふ
月比あひしむか
かきひく栞果と
一校はなれり
さよふらふ
あふふふふふ
かきふらふ
しむふふふ

かきふらふ
あふふふふ
かきふらふ
しむふふふ

くせしめとくふいふ

葛原孝吉

くせしめとくふいふ
あふふふふ
かきふらふ
しむふふふ
あふふふふ
かきふらふ
しむふふふ

和泉式部

くせしめとくふいふ

くせしめとくふいふ
あふふふふ
かきふらふ
しむふふふ
あふふふふ
かきふらふ
しむふふふ

あふふふふ
かきふらふ
しむふふふ
あふふふふ
かきふらふ
しむふふふ

六条院宣旨

あふふふふ
かきふらふ
しむふふふ
あふふふふ
かきふらふ
しむふふふ
あふふふふ
かきふらふ
しむふふふ

ちんせつこうりかたの
 ことけつくむすき
 としんごめすの備
 乃うせ貝とよめり
 おうらうまふら
 とあまねねらんま
 らひあねよとのま
 傳ありお乃多入所贖物
 云奉根は六月の雨
 船餉よりしよ上よま
 らす四乃土器を法指
 とくこしとこ濁り
 盤所三間水間船餉方敷黄端疊東倚子具南女房簡入袋と
 おつろまはくされ筑麻糸の濁り拾遺折三あつたれ神よあ
 人のねろくととびさして我うけりあまきまつくつらう人受束らと

河あつ拍乃あふをもちらとく侍々を
 大盤より人乃こむ侍たれは流りす
 ことあうかきはげ侍々を
 藤原朝經の御
 おろけなはくされ神乃ああ
 いづつあうかすいすい

大盤より女乃侍れは夢秘抄云壘
 拾遺折三あつたれ神よあ
 人受束らと
 藤原朝經の御
 藤原朝經の御
 藤原朝經の御

後冷泉院々このち長暦
 元年八月十七日春宮
 二条院 幸子内親也
 後一条院も女母中宮國
 道長女長暦元年十二
 月十三日所蒙るは春
 春宮坊後冷泉院在
 平二品宮 春宮坊物
 春この子日にかり
 二条乃れり二条院
 前中宮乃げ若つた
 二条院の所母守宮園子
 長元九年九月六日崩

後拾遺和歌集第十九
 難五
 後冷泉院々乃まとる時
 二条院もあつたれ
 と見えも事や何なりん
 侍々
 出羽守 中宮殿子女
 春この子日にかり
 二条院東よりあつたれ
 侍々

其のひねれあやう
せりこぢやよしの世と
彼中まれば脈の姫との
入田せむさむひうらす
夜臺ふかりまよふ様
しこあせむらうの世
期しこらほうとまん
よふしあふく様ゆ
とあふさうとせ
春乃月よかしてさむせ
一糸ま入せまひおけ
ま隠れまひまひと
春の月よゆしと
まひ春目新よ様を
かすしきのまひと

乃けあちほわよあつと
ゆる人の侍はれた大納二位
其のひねれあやうさむけさうか
せりこぢやよしの世と
出羽安
春乃月よかしてさむせ
しこあふくやちうてま
後冷泉院をさるま
うらりあひまひ一糸ま
まひまに様乃花をま
はま

はまひまひまひまひ
とあひまひまひまひ
まひまひまひまひ
物成世田まひまひ
様をまひまひまひ
まひまひまひまひ
花青まひまひまひ
はまひまひまひまひ
まひまひまひまひ
まひまひまひまひ
春乃の流まひまひ
はまひまひまひまひ
まひまひまひまひ
まひまひまひまひ

まひまひまひまひ
おひわすま新乃ま
寛和二年七月十六日天子
二条院春宮と
おひまひまひまひ
まひまひまひまひ
入道お大納
まひまひまひまひ

タキツクリニ
 大カ造江八中抄持律
 工に取服神中抄云大カ
 はくわえくくる事一
 こそをえんもよるれ
 してふさう信教乃
 年はわえまも年
 信でえいと信もこ
 三悪業亦わもも
 けると大カ能ゆる
 こそうし信あやわ
 一し一りちりてあわわ
 追衛大将とちりまも
 ひとことり教義教の
 母に力近忠大将信時
 乃娘とれハ信時とて

一し一りちりてあわわ
 追衛大将とちりまも
 ひとことり教義教の
 母に力近忠大将信時
 乃娘とれハ信時とて
 一し一りちりてあわわ
 追衛大将とちりまも
 ひとことり教義教の
 母に力近忠大将信時
 乃娘とれハ信時とて

一し一りちりてあわわ
 追衛大将とちりまも
 ひとことり教義教の
 母に力近忠大将信時
 乃娘とれハ信時とて

一し一りちりてあわわ
 追衛大将とちりまも
 ひとことり教義教の
 母に力近忠大将信時
 乃娘とれハ信時とて

ありとあらわしむるに
しむるついでに
乃孫ありし

二条前大政大臣が將子
教通公道長の子に任
命寛弘四年十月奉
将同五年正月十八日中將
延久二年三月廿二日大政
大臣七十五歳 乃孫補任

乃孫と山春日丸の
子と小油丸を結ぶ
心細き川音の強
長家氏の子 道長の子
寛徳元年十一月音氏
稱号大官又号三條

乃孫後子ありて又乃孫
乃孫と山春日丸の孫
乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫
乃孫と山春日丸の孫

上東門院長家氏の子乃三條の家

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

乃孫と山春日丸の孫

とくをくすめるまの
心ハ明くくの女を柱垣
とくをくすめるまの
存撰集柱垣姫乃音
年よれハ我黒髪も志
ら川のいーとくをく
ハせくすめりし童
薬物よ友離とくをく
春之れとくをくせぬ
心明く三昧詩人生
莫遣頭如雪縦得
春風亦不消
大嘗會乃所撰 源氏
子一彦乃御事なれん
何處より後被あつ

とくをくすめるまの
子川とくをくすめるまの
春のけらきるまの
かたるを
春之れとくをくせぬ
けらけらけら
長和元年十月廿百大嘗會
三條院所撰大嘗會乃所撰
とくをくすめるまの
原よす子なる少将井乃あはれと
にはけりける 伊勢大捕

江次第十書
世よとくをくすめるまの
とくをくすめるまの
豊所撰大嘗會の
撰乃よりし源氏とくをく
にうすく所撰行書
よらあし小堀山乃雪
とくをくすめるまの
小堀山こすめりし
やけらけらけら
まの帝乃後もよ本
乃字をくすめるまの
あはれ

世よとくをくすめるまの
とくをくすめるまの
小堀山こすめりし
うやすくすめるまの
寛弘元年六月廿日崩
一糸院うせとくをくすめるまの
まのりあまのいよらるる
比ひくすめりし
しあはれとくをくすめるまの
伊勢大捕

流乃掃部カシニのりつゝ
そまは物成る使のたれ
ひんきつふたまをとか
わつてきりま
中官のこつちまねのち
教通云の上東内院内
河してきて 若年サネトシ并
と臣氏梅枝事とも
奇を致のやうな事
也兼た物成るにそまの
内内泥まてきりま
りきりまのちとま
いとあり
ひつちまのちやうと
月花を目よりうてり

うら白らぬ乃ちうら金のりこよ
かこちまのちけはひの中まのり
りまねのちや日るけのちり
鏡乃ちうら河してま
けりま
若原長徳若原長徳
ひつちまのちやうと
ます乃ちりまのち
若原のちまのち
かこちまのちけはひの中まのり
りまねのちや日るけのちり
鏡乃ちうら河してま
けりま

あをすかやとく白き
布と流れて藍アヲのてり
そまのちとれま
こりま一糸綿園は
あをき成のま摺の色
神代よりすたのち
神代とひひりまのち
ひつちまのちやうと
相あつてひひり
まのちまのち
こりま一糸綿園は
あをき成のま摺の色
神代よりすたのち
神代とひひりまのち

神代よりすたのち
みりまのち
一糸院淨時定中尾宮自常公なる
けりまのち
ます乃ちりまのち
かこちまのちけはひの中まのり
りまねのちや日るけのちり
鏡乃ちうら河してま
けりま

選子内親と

何いしあのかまのれ

結をわくうらうらと

その出藍よふ井と

つひにけくもたれ

ハ明きく

こも人あもあして

こも人あもあして

こも人あもあして

こも人あもあして

坂原實方朝臣

何いしあのかまのれ

つひにけくもたれ

こも人あもあして

こも人あもあして

こも人あもあして

こも人あもあして

こも人あもあして

こも人あもあして

こも人あもあして

こも人あもあして

こも人あもあして

こも人あもあして

こも人あもあして

こも人あもあして

こも人あもあして

こも人あもあして

こも人あもあして

今うはけはつたれいよめ

法眼保賢 橋本三浦仲子

おもしろいあもあして

おもしろいあもあして

おもしろいあもあして

おもしろいあもあして

おもしろいあもあして

おもしろいあもあして

おもしろいあもあして

大貳依理 云補任云

正三位前大宰大貳系

一系院時大貳依理はくよ侍

りるよ侍よ本かきよくく

譏作理心丸中將敦敏
子清慎公孫 三跡乃
一人し流お乃大宰府
りちりれぬのさや
予やこへといまのねり
せ乃松原流おちり
いさりちといん流
よとりりやろし郊よ
ゆきゆりて君ちりせ
りありん

ろのち乃人い
箱流流お若の人
の

ちりりれいお
まんさくかき
ゆるり

予やこへといまのねり
きしりちとせりり
おとあてて父乃
ゆるり後
てゆるり

中將尼 大和源法時

ろのち乃人い

人とい
こはり
松原基房 中酒 明經
前常陸双
心をはり

阿波ちよあ
ありて下
りあり波乃
ゆるり

松原基房 朝臣

こはり
おとあ
おとあ
おとあ
おとあ

連教法師 母傳道人

きりほちやと人
こころはなほ
や人をよもも
備うにまうしん
してほの張るあり

きりほちやと人
まうしん物をわり
肥後ち義法く
秋さう野乃花
さいせくつ
きりほちやと人

うちむしり

義法く
弱ありり
のうら
ハ運海野の
も

源兼長

うちむしり
あうれゆけ
あつ

小町のきや

東月の
東風吹く
あつち
都の事
昔や
この
あつち
心明
情多
太宰乃
下ア

よ

源兼俊母
お統おちる
母伊勢大納

小町のきや

こら乃

康資王母
父母同兼俊

あつち

な

は

傳乃

る

とわわきし我者よ
 菊の心ゆくは
 さよふ我者の如き
 うつろふはともかく
 舞臺の心ゆくは
 うんとこ東の菊の
 踊るは洞の心ゆくは
 花よりしてかもし
 憚閑八宝お唐真に
 おをすしめすしめ
 やすふはともかく
 何ゆふはすしめ
 菊の心ゆくは
 の心を東の梅

とわわわして我者の心
 花よりしはともかく
 今らの心ゆくは
 菊の心ゆくは
 花よりしはともかく
 やすしめしめ
 おをすしめすしめ
 かしめしめ
 の心を東の梅
 花よりしはともかく
 菊の心ゆくは
 花よりしはともかく
 今らの心ゆくは
 菊の心ゆくは
 花よりしはともかく
 今將意
 大正匡衡
 花よりしはともかく

みらの心ゆくは
 序の心ゆくは
 おをすしめすしめ
 うんとこ東の菊の
 心ゆくは洞の心ゆくは
 花よりしてかもし
 憚閑八宝お唐真に
 おをすしめすしめ
 やすふはともかく
 何ゆふはすしめ
 菊の心ゆくは
 の心を東の梅

みらの心ゆくは
 おをすしめすしめ
 實方期はみらの心ゆくは
 花よりしはともかく
 今將意
 大正匡衡
 花よりしはともかく
 わすしめぬ人乃中
 まうし人乃の心ゆくは
 花よりしはともかく
 今將意
 大正匡衡

六波羅 六波羅密寺
 十一面觀音堂也上人建立
 全行薄八薄きの神
 六波羅 六波羅密寺
 十一面觀音堂也上人建立
 全行薄八薄きの神

赤染衛門
 六波羅とて寺に...
 車乃...
 神...

乃... 近江如意
 後觀音 朗安信
 建立
 今... 今...
 乃...

和泉武部
 山階寺供...
 南都兵福...
 山階寺供...

山階寺供養 康平三年
 五月 曾良福寺 上の
 後 遠宮より 治暦三
 年 二月 廿五日 供養
 之のり 准淨 鉢倉と
 或記より 史中
 かつ 海乃ちつひと
 是彼 供養のさるを
 轉弄 一々 記す
 佛の 誓ひの 傳き
 あり 今 大政大臣の
 供養 之のさるに
 大宮より 奥後抄
 弘誓 深如海の

頼通云

大后乃ち... 播磨右大臣 頼通云

わらき 海乃ちつひと...
 山里より...
 西八條乃家...
 引合...
 侍...
 伊勢大輔

ら花...
 心...
 藤花...
 山里...
 四條宮 皇后 寛子 頼通
 公女 後 院 院
 都人...

こも花...
 山里...
 源...
 日...
 伏...
 山...
 都人...

系は近左の二首
 かさつぬれ伏尺と
 みまふくしをい
 名姑と可いさま
 續世経十五云白の院
 一よる白まてふは
 回世多いなを石田
 うゆれ次小の陽院
 才三よの後細の伏尺
 やはらへんとうり
 建たるこも中界
 杉もすまやともい
 心明し
 二月五書 今八絶の
 事やんの人ことおあ

小よはさと乃名をしこの
 かさふ人乃ともな年以
 にかかろるもちりゆくさ
 みる人漢情をよん人
 杉もすまやともむり
 かさる人乃こくろ
 ひえ乃山よ二月ふ
 事とけく事結なり
 せんより人乃山よ
 竹花の芳け山よ

せいのまや
 ひりかま
 いひりあつ
 こつたひ
 やのま
 庚申志く
 ろりお抄
 小よはら
 童蒙抄
 己六唐小
 琴をい
 これを
 死よし
 伯牙身
 琴の結

蓮仲法師 信長お信子
 おもい
 花乃
 何より
 うら乃
 大申長
 是り
 陽明門院
 入道一
 信乃
 式
 敦員
 小
 子
 女
 一
 女
 女
 女

うすごころちぶらうの
とと葛経也陶関明
葛を結みしていく
と曲とあやうまのま
けまをひきまきつ
又結みして双を
とてあうりつり
人しむらほれはあ
我やうらりあやわ
うきあもよむり
めましむらほれはあ
うきあもよむり
小伝とらまんとあ
うらあもよむり
ころくは伝おま棚行

あごおうく映たれいとのみらの
とと葛経も人乃そふ又乃日
乃笛のあひかりよりついで
しかりとを今こほれま
乃笛もよ人しむらほれま
ころかりとを今こほれま
り
相換
うらあもよむり
まほりうらあもよむり
人乃扇う山里乃人しむらほれま

音鼓坊等の囃し
と八音常階とつと
よせし後し愚案胡
竹とこちし事とこい
みけつあましあひ
は漢竹胡竹とつと
と鹿少と吉けみ
鹿の木の茂きあひ
少とよるの序多
葛のおまを愛する
故うらあもよむり
とてとるの物
はねあもよむり
子常世母のりりの色
終よかをれて八切徳地

かおしとよめ
大中長徳宣胡長
と鹿少と吉けみ
うらあもよむり
法師乃りつらこれめとよめ
よめ
源聖
はねあもよむり
いけ乃をらすなつあもよむり
人乃りあもよむり
つて身よのりく出づるあもよむり

乃蓮生をりいそ
 推し事されし山
 様も池蓮と對し
 池乃楳を紋つる
 ようしそよあり
 ちちあらしそあり
 持あらし月のをに
 うしそ月日れ光
 とけて盛慮すれ
 いかけしそとと
 りそせもあらし
 盛られしと白の雨
 小倉乃家兼明親王
 龜山の麓に滿濟
 一曾乃僧公の菴來

菟原為親親長
 ちちあらしそせもあらし
 さよあらしつる
 小倉乃家よす
 くる月午のくる人乃
 乃校をかりそと
 心しむぐさありそ
 鳴乃字よえありそ
 結くるあらしそ
 中務兼明親王

よしそ菴來財序
 云余海山之下
 衆欲辞官休身終老
 於此とれあらし
 文粹よりあり
 ありや一花の
 山吹乃さるる
 菴あらしそ
 隆興寺則光佛通
 又也山本枕草子
 せうとされし
 枕草子に八景相傳
 秋信つのはかあり
 せうとあり
 日比見娘

ありや一花の
 予乃いとありそ
 隆興寺則光
 及身しそ
 ありや一花の
 結くるに里
 あらしそあり
 里よありあり
 せうとあり
 何のありあり
 結くるあり

後十九

則先されに東内志
らんおせめきし由こ
おしあつふふなれ

海まらすまよりし
おしあつふふなれ

お布をきくはつ我在お
とゆめくつふふふの

目くつせめふふふ
こりやめをくつせめわ

とせめくつふふふ
後あつてふふふ

ふふふおつふふふ
ふふふおつふふふ
万葉を引くふふふ
也ふふ後水抄三ふ

けりふふわんれい則先ふふふ
ふふふふふふふふふふ
結なれいふふふ 結が納

おしあつふふふふふふふふふ
此集作若原團房の別号
やめをくつせめふん

駿河も團房と車よののりて物よ

おりふふふふふふふふふふふふ
サタス五
とて俄り車よりわつれ
ふふふ

源光後 肥後守 源清子
隆興寺 五位

ふふふおつふふふ
ふふふおつふふふ

ちねい母ふふふふ
ふふふおつふふふ

に父ふふふふふ
ふふふおつふふふ

ふふふおつふふふ
ふふふおつふふふ

ふふふおつふふふ
ふふふおつふふふ

ふふふおつふふふ
ふふふおつふふふ

ふふふおつふふふ
ふふふおつふふふ

ふふふおつふふふ
ふふふおつふふふ

ふふふおつふふふ
ふふふおつふふふ

ふふふおつふふふ
ふふふおつふふふ

ふふふおつふふふ
ふふふおつふふふ

ふふふおつふふふ
ふふふおつふふふ

ふふふおつふふふ
ふふふおつふふふ

ふふふおつふふふ
ふふふおつふふふ
伊國の長徳四年十月
はるふふふのふふ
乃わふふふ松君といふれ

あさちよはなれぬをねん
松若乃あまもさうり
まはるはしまも物流
五三殿乃あつらふ
若きいあしすま
ふたかりう
かきあつと目
しんまのふ松若乃あ
まはるはし
て殿い
ハ松若乃い
あのみを
うま
い

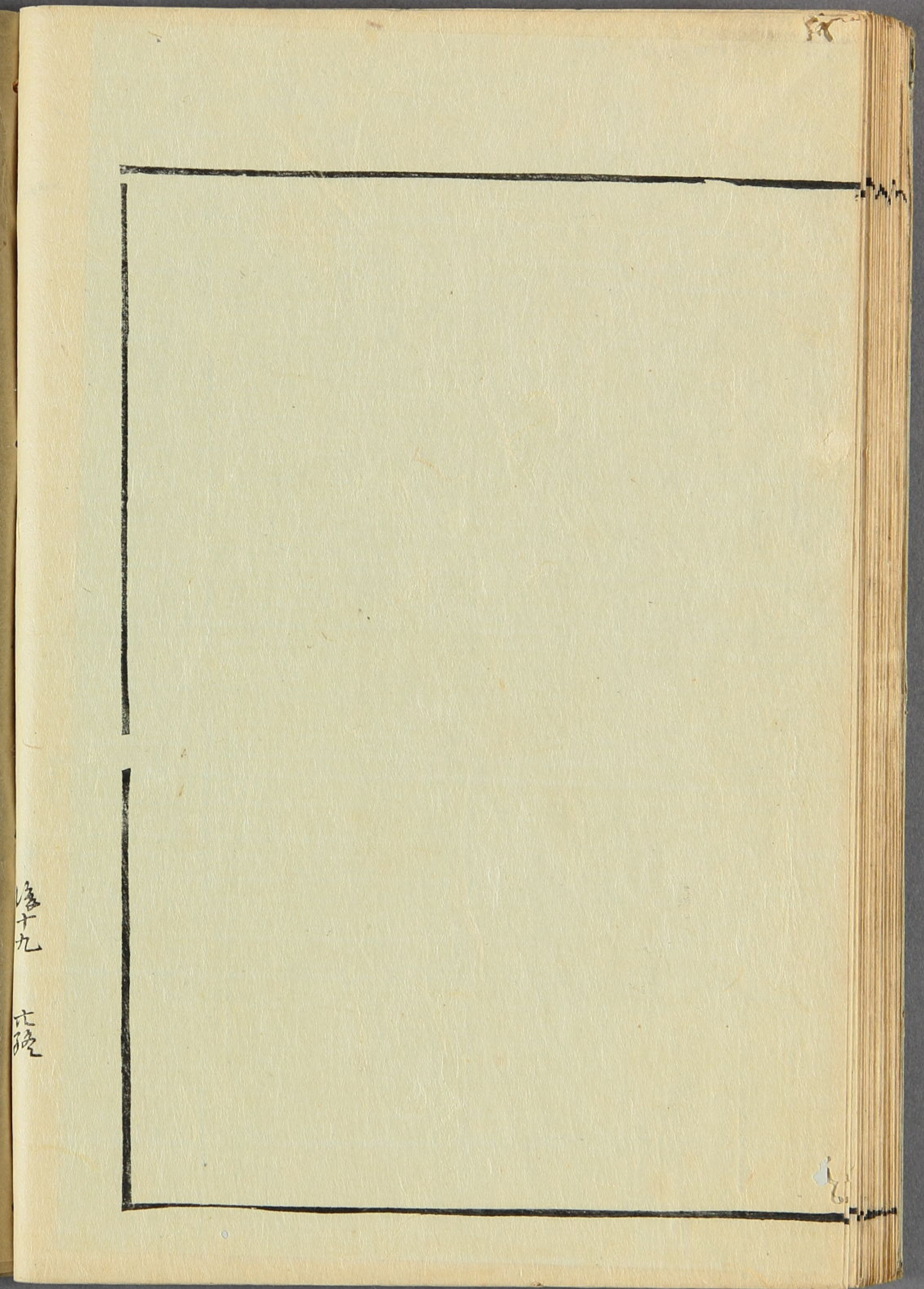
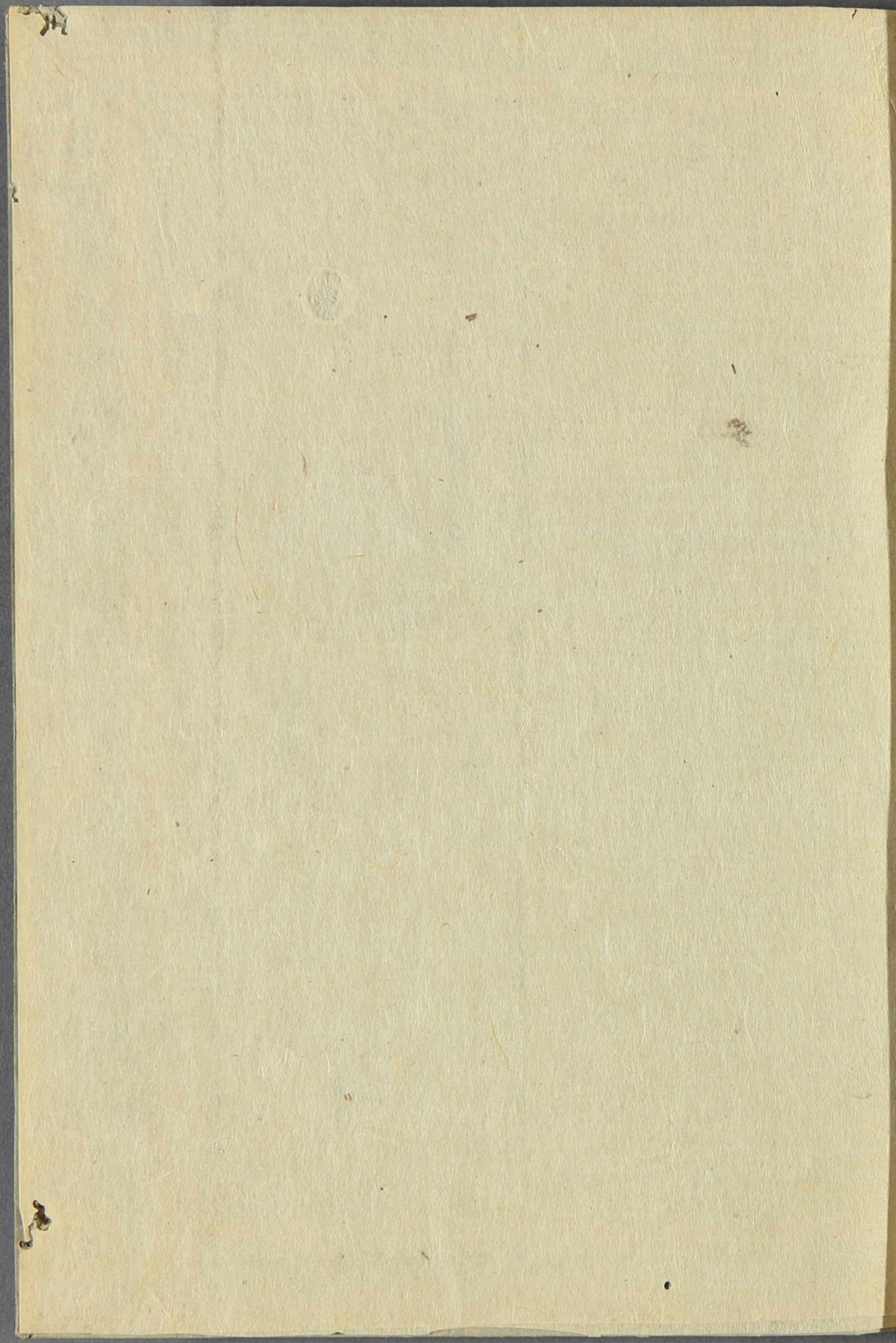
かきあつと目
あさちよはなれぬをねん
松若乃あまもさうり
まはるはしまも物流
五三殿乃あつらふ
若きいあしすま
ふたかりう
かきあつと目
しんまのふ松若乃あ
まはるはし
て殿い
ハ松若乃い
あのみを
うま
い

天台座主教園 信長の子

あさちよはなれぬをねん
松若乃あまもさうり
まはるはしまも物流
五三殿乃あつらふ
若きいあしすま
ふたかりう
かきあつと目
しんまのふ松若乃あ
まはるはし
て殿い
ハ松若乃い
あのみを
うま
い

あさちよはなれぬをねん
松若乃あまもさうり
まはるはしまも物流
五三殿乃あつらふ
若きいあしすま
ふたかりう
かきあつと目
しんまのふ松若乃あ
まはるはし
て殿い
ハ松若乃い
あのみを
うま
い

教原のり



卷十九

七

